

## 第4回東大阪市上下水道事業経営審議会 議事概要

### 1. 開催概要

日 時	令和4年10月17日(月) 13:30~15:15
場 所	東大阪市上下水道局 水道庁舎2階 第1会議室
出席者	<u>委員</u> 杢永会長、笠原副会長、小出委員、東野委員、松浦委員、覚道委員、梶原委員、廣木委員 <u>理事者</u> (上下水道局) 賀川、木邨、吉村、宮地、神谷、熊野、堀ノ内、亀井、安田、蜂谷、上山、樋口 <u>庶務</u> (上下水道局) 巽、武田、佐藤、山口、尾崎、下別府、伊東、中島
次 第	1 開会 2 会議の公開及び傍聴者の入場 3 議事 (案件1) 令和3年度東大阪市水道事業会計決算報告 (案件2) 令和3年度東大阪市下水道事業会計決算報告 (案件3) 令和3年度水道ビジョンの進捗報告 (案件4) 令和3年度下水道事業経営戦略の進捗報告 (案件5) 大阪広域水道企業団について 4 閉会
配布資料	資料-1 出席者名簿 資料-2 令和3年度水道事業会計決算説明 資料-3 令和3年度下水道事業会計決算説明 資料-4 令和3年度水道ビジョンの進捗報告 資料-5 令和3年度下水道事業経営戦略の進捗報告 資料-6 大阪広域水道企業団について

## 2. 会議内容（要旨）

案 件	主な意見・質問	回 答 等
令和3年度 東大阪市水道事業会計 決算報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料4ページに法定耐用年数40年を経過した管路が今後増加していくことが示されています。アセットマネジメントを導入しているが、40年を経過すれば水道管が全て古くかつ悪くなるという理解を導いてしまうおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市アセットマネジメントでは管路更新基準年数を材質の違いで40年から80年と設定している。ダクタイル鋳鉄管（耐震継手）であれば、法定耐用年数40年に対して100年としています。これらの更新基準年数を基に管路更新を進めている。</li> </ul>
令和3年度 東大阪市下水道事業会計 決算報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚水処理原価が大幅に減少しており、今後も経営努力を続けてもらいたいと考える。今後の経営の見通しについて説明を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度は経営戦略に基づいた長期的な視野に立ち費用の平準化などの経営努力を実施した結果、前年度から約3億円の増加である9億1,558万円の黒字を計上。経営戦略期間中は、経営戦略に基づいた経営努力を継続し、黒字計上していきたい。</li> <li>経営戦略策定後の令和13年度以降は、経営を圧迫していた借金返済額の減少により、事業資金残高が増加に転じるため安定的な経営が出来ると考える。</li> </ul>
令和3年度 水道ビジョンの進捗報 告	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の取組みについては、全体としては概ね達成しているものと思われる。ただし、6項目については目標が達成されていない状況にあり、課題として挙げられている。特に、管路更新率については目標値を大きく下回っている。水道水を安全、安心に届けるために重要な指標であることから、来年度以降は目標が達成できるようにしっかり取り組んでほしい。その他の課題についても、改めて課題を整理し、次年度の取組に繋げてほしい。</li> </ul>	

案 件	主な意見・質問	回 答 等
令和3年度 下水道事業 経営戦略の 進捗報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>増補管の整備が計画通り整備したとなっているが評価としては「目標をある程度達成」となっている根拠は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本項目は、最終的に施設が完成した場合、又は、単年度で設定した計画値を超えて整備した場合において「目標達成」となる評価基準である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目の四段階評価について水道事業は「◎・○・△・×」を採用しているのに対し、下水道事業は「A・B・C・D」となっている理由は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道ビジョンと下水道事業経営戦略は各々の基準で作成及び評価を実施し、評価の記載表現も各々で決定しているため、統一していない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道ビジョンと下水道事業経営戦略は依拠の相違により異なるスケールとなっているが、市民目線では統一する方が望ましいと考える。 進捗報告については33項目中評価Aが12項目で全体の4割程度であり少なく考えられるが、様々な環境変化を得た上での長期目標である。 今後は本審議会で出された意見を取り纏め、現状に即した実効性の高い下水道事業経営戦略となることを望む。</li> </ul>	
大阪広域水道企業団について	<ul style="list-style-type: none"> <li>統合のメリットは書かれているが、統合のデメリットは考えられないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営面や市民サービス面についてはデメリットが生じることはないと考えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道ビジョンの取組みは、大阪広域水道企業団に統合後も引き継がれるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の水道ビジョンは10年間を予定しており、統合後も引き継がれる予定である。</li> <li>これまでに統合した市町村も、統合前に策定された計画は、統合後も引き継ぐ形で事業運営している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行の水道ビジョンは、10年間は継続だと思うが、その後はどの単位で検討していくのか。水道センター単位ではなくて、統合した全体の中での最適化をしていく方向で次の計画を考えて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当面は、各水道センターそれぞれの統合前の市町村のものを引き継いでいることから、個別の水道事業単位での計画になる。ただし、最終的には会計を一本化していくことが目標の大前提</li> </ul>

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<p>いくイメージなるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東大阪市の場合は、経営審議会により事業計画、会計のチェックや住民の意思を問う形になっているが、統合した場合の住民との関係性はどのようになるのか。</li> </ul>	<p>なので、計画もそのような方向になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業団議会があり、そこに各市の議員を派遣することでチェックする仕組みである。</li> <li>加えて、企業団でも経営事業評価委員会がある。第三者として外部委員の方にも審議等をいただき、公平性を保つ形で進めていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業団との統合の検討は、水道ビジョンにおいても掲げられている取り組みである。水道事業は、ヒト、モノ、カネの問題を抱えているといわれている。企業団との統合は、そのような課題を解消するために有効な方策だと考えられるので、しっかりと検討を進めてほしい。</li> </ul>	